

フランス 青果物の業界団体はプラスチック包装禁止を支持

EUROFRUIT 2024年1月5日

果実や野菜のプラスチック包装を禁止するフランスの政令は十分でないという一部環境保護団体の懸念があるが、青果物の業界団体であるインターフェルのローラン・グランダン会長はこの分野の取り組みを支持

フランスでは2024年1月1日に政令が発効し、1.5kg未満の販売単位にまとめられた果実や野菜は、プラスチックを用いた包装で販売することができなくなった。

イチゴはプラスチック禁止の対象外

しかし、一部の環境保護団体は、禁止の例外が多いことを批判している。環境保護団体「ゼロ廃棄物フランス」の広報責任者であるマノン・リシェール氏は、「現状では、免除のリストが長すぎる。これでは、2040年までに使い捨てプラスチックをゼロにするという目標を達成することはできない」と話す。

しかし、青果物関係の産業間組織であるインターフェル(Interfel)のローラン・グランダン会長は、免除は「商品の傷みややすさと技術的解決策がまだ存在しないという現実によるものだ」と主張して、リストを擁護した。

同会長はまた、プラスチック包装の使用量削減に向けたこれまでの取り組みを支持し、ラジオ局フランスインフォで、「我々はプラスチックを追放することに賛成である。青果物の半分は代替の包装資材で梱包されており、青果物の3分の2はすでにばら売りで販売している」と述べた。

グランダン会長によると、事態をいくぶん複雑にしているのは、現在、EU加盟国の統一見解が議論されており、EUではこの政令がどうやら「違法と見なされる」ことである。

執筆者: トム・ジョイス

ドバイ 使い捨てビニール袋・プラスチック製品の禁止を発表

FreshPlaza 2024年1月5日

ドバイは使い捨てビニール袋等の禁止を発表した。ドバイのシェイク・ハムダン・ビン・ムハンマド・ビン・ラシッド・アル・マクトウム皇太子は、2023年12月31日に決議を発令した。この禁止は、使い捨て製品とリサイクルされた製品に適用され、材料の組成に関係なくプラスチック製品と非プラスチック製品が含まれる。

プラスチック製及び非プラスチック製の使い捨て製品には、食品配送用の梱包材、果実と野菜の包装、厚手のビニール袋、プラスチック製容器、及び一部または全部がプラスチック製の梱包材が含まれる。ペットボトル、スナック袋、ウェットティッシュ、風船及び風船の棒も禁止対象となる。

この禁止措置は、ドバイ国内の販売者と消費者に及び、ドバイ国際金融センター(DIFC)等の経済特区と民間開発地区が含まれる。

肉、魚、野菜、果実、穀物及びパンを包装するために使用されるロール式の薄手の袋、ゴミ袋、輸出または再輸出を目的とした製品は禁止から除外される。これには、使い捨てのプラスチック(ビニール)製ショッピングバッグ、その他の使い捨てショッピングバッグ、使い捨てのプラスチック製品が含まれる。

使い捨てプラスチック製品の禁止は2025年1月1日から適用され、ドバイではプラスチック製の攪拌棒、テーパークロス、カップ、発泡スチロール製の食品容器、プラスチック製のストロー及びプラスチック製の綿棒などが禁止される。

その他の使い捨てプラスチック製品の禁止は、2026年1月1日から適用され、禁止はプラスチック製(以下同じ)の皿、食品容器、カトラリー(ナイフ、スプーン、フォーク等)、飲料カップとその蓋にまで及ぶ。

出典: economymiddleeast.com